

女性医師支援センター便り

第13回キャリア支援セミナーの報告

宮城県医師会常任理事

宮城県医師会女性医師支援センター委員

福 興 なおみ

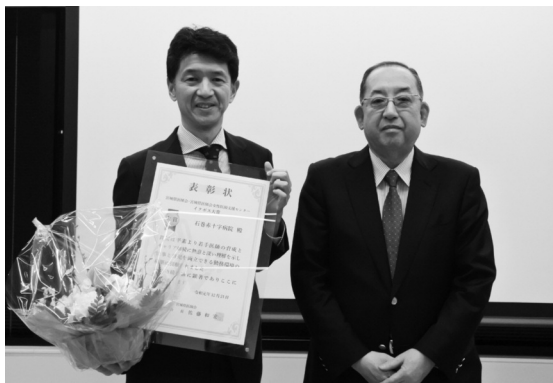
12月21日（土）に宮城県医師会館で、「広がれ！イクボスの輪2019」というテーマで第13回キャリア支援セミナーが開催されました。本セミナーの名称は、第12回目までは「女性医師支援セミナー」としていましたが、これからは女性医師のみならず全ての医師の活躍推進やキャリア支援を目的に活動するため、第13回から名称を「キャリア支援セミナー」に変更しての開催となりました。

本セミナーでのメインイベントはイクボス大賞の表彰式です。

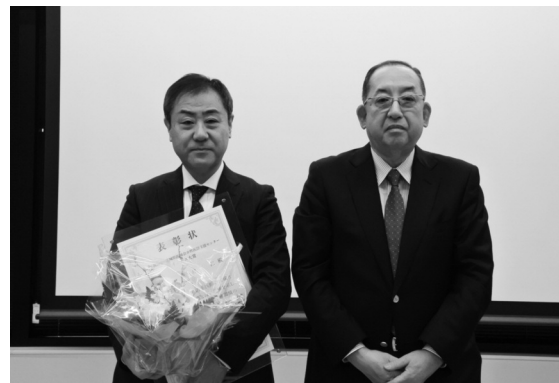
宮城県医師会佐藤和宏会長の挨拶後、今年度のイクボス大賞（団体）である石巻赤十字病院（石橋 悟院長）、特別賞（個人）である国立病院機構仙台医療センター産婦人科部長の新倉 仁先生が表彰されました。引き続き行われた受賞講演では、宮城県医師会副会長で宮城県医師会女性医師支援センター長の橋本 省先生が座長を務め、イクボス大賞として受賞された石橋 悟院長、特別賞（個人）として受賞された新倉 仁先生が講演なさいました。

石橋 悟先生のご講演では、全職員1,251名中約75%を占める女性職員（うち女性医師は全医師142名中16%）という状況の中で、医師に限らず広く行っているキャリア支援が紹介されました。中でもライフイベントに関する制度をわかりやすくまとめた冊子の作成や、育児休業中職員のモチベーションを保つための取り組みなど、きめ細やかな支援を聴いて、会場の誰もが本病院の受賞に納得していました。キャリア支援とは「職場全体で支援する」という一つの文化であるという石橋院長の言葉が印象的でした。

新倉 仁先生は、年間1,000件以上の分娩と婦人科救急から悪性腫瘍手術まで500件程度の手術を取り扱う現場で、半数が女性医師という状況の中でどのようにしたらお互いがカバーしあえる



石橋 悟先生と佐藤会長



新倉 仁先生と佐藤会長

チームが作れるか、ということについて話されました。「たとえ一時的にフルタイム勤務ができないとしても、キャリアアップを目指し働き甲斐のある職場であることが大事だと思っている」という新倉先生の言葉は、新倉先生のお人柄が表れており、また新倉先生のもとで働いている医師はそのリーダー力に支えられることでキャリアアップできている姿が想像できました。

イクボス大賞受賞講演後には、特別講演としてドコモCS東北総務部ダイバーシティ推進担当課長上崎里佳氏からお話をいただきました。会社の中に、ダイバーシティ推進を専任とする部署ができ、初めてその担当課長となった時からこれまでの活動が紹介されました。はじめは認知度が低かったダイバーシティ推進活動も、今では経営の重要な柱として掲げられていることに、組織全体として取り組むことの大切さを学びました。



上崎里佳先生

その後のディスカッションでは活発な意見交換がなされ、それぞれの立場や職場での「働き方」に対する課題があることが明らかとなりました。初代イクボス大賞を受賞された国立病院機構仙台医療センター病院長でもある橋本 省副会長の挨拶で、セミナーは閉会しました。



- 主な取り組み
1. 妊娠・出産・育児に関する支えをまとめた冊子の作成
 2. 育児休業中職員を対象とした育児支援イベントの実施
 3. 院内保育所の開設